

事例 23 単元 「発見したことを伝えよう（話すこと・聞くこと）」

## スピーチの会を開く

国語 第1学年  
川北町立川北中学校

### 1 事例の概要

本校の活用力向上の研究では、題材や問題への関心・意欲を高めることが、題材や問題への認識を深め、疑問を起し課題を見つけ、解決や探求の過程において資料や事実を正しく理解・分析し、表現し伝えようという態度や力の育成につながると考える。その学習の満足感や達成感が、さらに学習意欲につながり活用力を向上させるのである。つまり、各教科において、関心・意欲を高める工夫を授業に取り入れ継続すれば、生徒の思考力や判断力、表現力が育つとともに、関心・意欲が態度まで高められるようになって考えている。また、授業においては、生徒が学習する場としてクラスや学年がどのような集団であるかが重要である。そこで道徳や学級活動を通しての集団づくりにもあわせて取り組んでいる。

活用力の1つである表現力において、話す力はどの教科においても重要である。ここでは、各教科の実践の一例として、国語科の話す力の育成の取り組みであるスピーチの授業実践を報告する。

スピーチの学習では、誰かに話したいと思わせる動機づけが大切である。あたらしく得た「発見」は興味深く話すことのできる素材として生徒の関心と意欲を喚起するものである。

「小学校と中学校のちがい」のスピーチは、生徒にとって最も豊富な実体験を伴うことがらである。中学校入学後の生活を振り返らせ、その中からスピーチしたいと思う事柄を1つにしぼり、聞き手に言いたいことが伝わる工夫を考えさせながら、スピーチすると同時に、話を聞き、その内容を自分と照らし合わせて考える聞き手としての意識を高めることを目標に授業に取り組んだ。

人前で話すことに少なからず抵抗を感じる生徒もみられるので、小グループでの発表の場をもうけた。

また、「読む」スピーチメモではなく、「話す」ためのメモを作らせ、自分の言葉で、自分の気持ちをスピーチできるように取り組んだ。

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・自らの話題を探し、自分の考えや気持ちを進んで表現しようとする。
- ・自分の考えや気持ちを話すために、ふさわしい話題を選ぶことができる。
- ・自分の考えや気持ちが伝わるように、工夫しながら話したり、友だちのスピーチに耳を傾け、自分の体験と比べながら聞くことができる。
- ・話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などを工夫してスピーチすることができる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### 【活用力を向上させるための関心・意欲を高めるための工夫】

- ・原稿を読むのではなく、メモをもとに話を構成できるように、ワークシートを工夫する。
  - メモのワークシートには、単語・矢印・話す速さ・声の大きさ・言葉の調子を書く。
- ・話し相手を少人数グループにし、話をすることに対する抵抗感を少なくする場面をもうける。
  - 列の前後の2人でお互いに話役と聞き役にわかれる。
  - 1分間で発表するという目標をもたせる。

#### B-1 評価計画

### 3 指導の実際

学習活動	主な発問 (●) と指示 (▲)	教師の支援 (◎・○・△) と評価 (☆)
<p>ふかめる</p> <p>話す内容にしたがって、スピーチメモを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なスピーチになるよう工夫しながら、メモを作る。</li> </ul> <p>作ったメモをもとに、スピーチの練習をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数でグループを作り、メモをもとにスピーチの練習をする。</li> <li>お互いに聞き合い、アドバイスをを行う。</li> <li>アドバイスをもとに、スピーチメモの見直し、手直しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時のスピーチの構成をもとに、スピーチメモを作ろう。</li> <li>▲スピーチメモの例を参考にしてみる。</li> <li>▲声の大きさや、話すスピード、調子なども書き加えみる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●少人数のグループで、順番にスピーチの練習をしよう。</li> <li>▲お互いにスピーチを聞き合い、良い点や改善点などをアドバイスする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題をおさえる。</li> </ul> <p>◎○例を参考にしながら、自分で工夫するように促す。 △例を参考にしながら、同じように作るように促す。</p> <p>☆意欲的にスピーチメモを作ろうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>☆積極的にスピーチの練習をしたり、アドバイスをしたりしようとしている。(関心・意欲・態度)</p>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 生徒のワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

生徒は、スピーチ用のメモをつくることには慣れていないので、最初に黒板でメモの例を示すと、それを参考にしながらメモをつくることができた。また、メモ作成の時間を多めにとり、机間指導の声かけによってメモをつくることができた。スピーチ練習は2人でお互いに1分間ずつ行い、スピーチが終わると、相手のスピーチについてアドバイスをおこなった。生徒は1分間という制限の中で集中的にスピーチに取り組むことができた。スピーチ後すぐの聞き手からのアドバイスは自分のスピーチがどのようなものであったかよくわかり効果的であった。また、アドバイスをしないと聞けないのでよく聞くことにもつながった。この授業を通して、スピーチ文章をメモにする思考力、話す速さ・声の大きさ・調子を考えた表現力、聞きやすさを判断する力が養われたと思われる。

#### (2) 課題

この授業において、さらに活用力向上につながる関心・意欲を高める工夫として考えられることは、導入部分において、メモなしでスピーチし、うまくできないことを示してメモの必要性を認識させることや、よいスピーチとはどのようなものかをビデオでみせるといったことである。また、スピーチ練習の時に声の大きさや話すスピードなどの観点や国語科の5観点(相手意識・目的意識・場面意識・方法意識・評価意識)を示すと、表現力や判断力を高めあう場になると考えられる。

今後も、各教科において、関心・意欲を高める工夫が、子どもの学ぶ意欲・態度をどのように変容させ、どのように活用力に結びつけたかをアンケート・自己評価・授業観察・課題解決のようす・テスト結果・作品制作・発表・実技を通して検証し、生徒の活用力を育てていきたい。